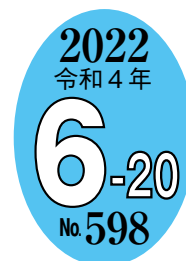




地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

月例調査レポート



飯山市(旧信濃平スキー場)
鷹落山 ハンググライダー離陸台

新潟県境に近い鷹落山^{たかおちやま}の山頂。鷹が落ちながら飛び立つという急斜面のこの場所は、車で行くことができる隠れたビューポイントです。足元に広がるのは、田植えを終えたばかりのみゆき野の水田風景。夏場のシーズンには、離陸台から落ちながら飛行するハンググライダーの姿を下界からも眺められます。そして秋、高社山麓を黄金色の稲穂が一斉に染め上げる実りの季節。是非ともこの場所から見てみたい日本の原風景です。

- 長野しんきん 月例調査レポート 2
- 企業アンケート コロナ禍における企業経営 ③ 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン 8
- 北信濃 明治時代の風景 (3) 大本願周辺 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



長野信用金庫

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」電気機械・自動車部品が増加するも、全体は減少

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(33%)が14%減少、「減少」割合(34%)が1%増加、「不変」割合(33%)が13%増加で、全体としては減少の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	47.0	19.7	33.3
	今回	増加 32.9	不変 32.8	減少 34.3
食料品		47.1	17.6	35.3
金属加工		15.4	38.4	46.2
一般機械		44.4	22.3	33.3
電気機械		0.0	60.0	40.0
自動車部品		20.0	40.0	40.0
精密機械		50.0	33.3	16.7

【業種別】 増加…電気機械・自動車部品

横ばい…食料品

減少…金属加工・一般機械・精密機械

【機械稼働】 (前回比) 稼働率 下降

上昇割合 (29%) → 17%

下降割合 (9%) → 16%

【受注状況】 受注量 (前回比) 下降

増加割合 (27%) → 22%

減少割合 (13%) → 16%

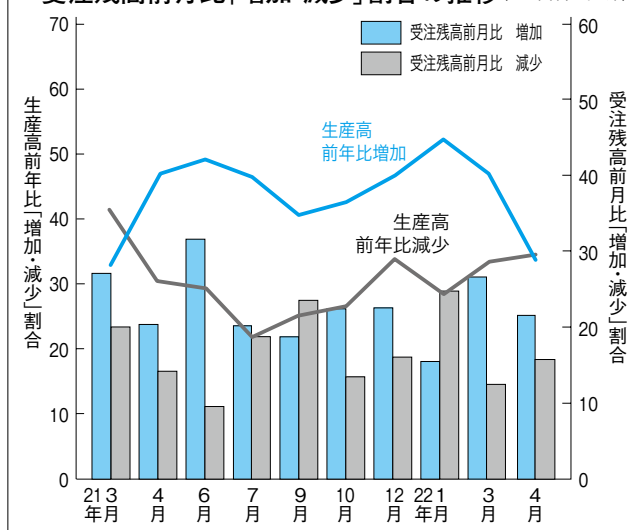
受注残高 (1.7ヵ月) → 1.8ヵ月

【受注基調】 (前回比) 下降

上昇割合 (25%) → 22%

下降割合 (11%) → 15%

●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前年比「増加・減少」割合の推移(%)資料:当金庫



企業からのコメント

☆当社の商品の一部が「コロナ支援物資」として採用され、生産・売上げともに大きく伸長した。今後にも期待していきたい。(乾そば)

☆★受注は順調になって来たが、「円安」と「ウクライナ情勢」で、部品調達の遅れとコストアップが続き、採算性の悪化に悩んでいる。(医療器械)

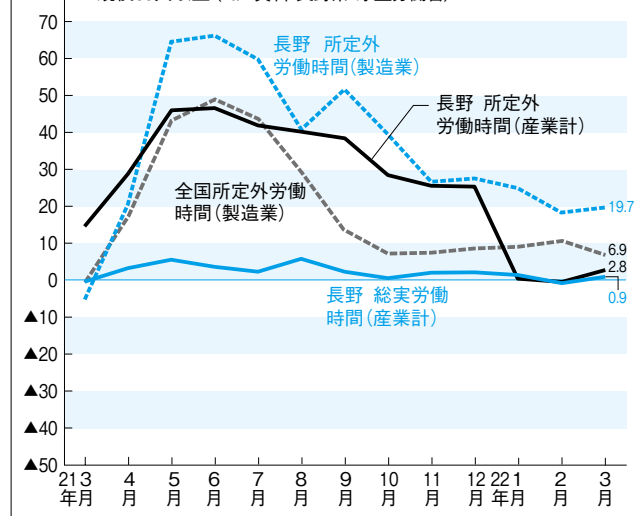
★善光寺御開帳が始まったが、売上げは前回時の50%ぐらいと低調。味噌業界では、原材料費等の値上がりによる値上げの話が出ている。(味噌)

★アルミ・ステンレスの価格が毎月上昇。ニッケルはロシア産が3割を占めているため、「ウクライナ情勢」で価格の高騰が必至であり、品不足を懸念している。(工作機械)

★受注に大きな変化はない。原材料や金属部品、ダンボール等の消耗品の値上げが続いている。短期間(3~6ヵ月)に再三値上げした物もある。(通信機部品)

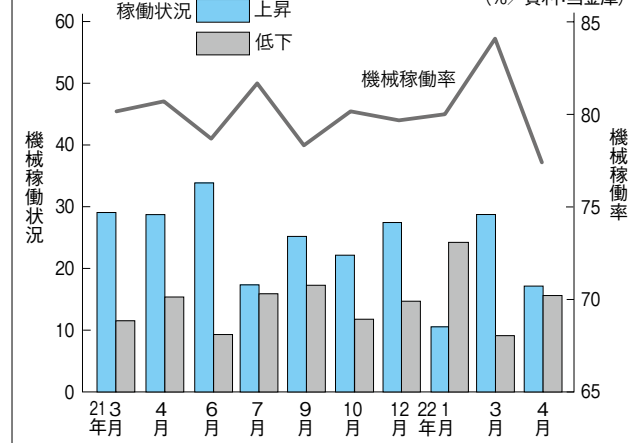
●長野県の労働時間の動き(前年同月比)

規模30人以上(%)資料:長野県・厚生労働省



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・低下」割合の推移

(%)資料:当金庫



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」総合建設が増加するも、全体は減少

概 況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(26%)が6ポイント減少、「減少」割合(34%)が17ポイント増加、「不変」割合(40%)が11ポイント減少、全体としては減少の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	32.2	50.9	16.9
	今回	増加 25.8	不変 40.3	減少 33.9
総合建設業		27.3	54.5	18.2
土木工事業		46.2	15.3	38.5
建築業		10.0	55.0	35.0
各種設備業		44.4	33.4	22.2

【業種別】 増加…総合建設

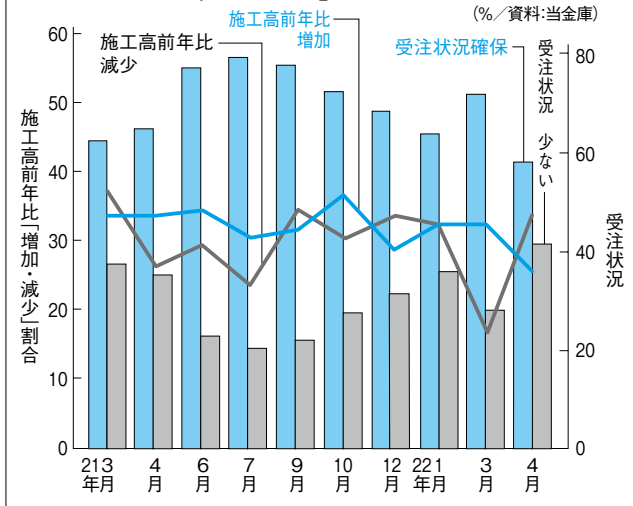
減少…土木工事・建築・各種設備

【受注状況】 受注残高(前回比) 減少

「多い・適正」割合 (72%) → 58%

「少ない」割合 (28%) → 42%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移



企業からのコメント

★ロシアのウクライナ侵攻による経済制裁で、ロシア産の単板など、一部木材の輸入が禁止され、ウッドショックに追い打ちをかける状況。(一般建築)

☆★前年同時期と比べ現場数は15%増えたが、原材料価格の上昇による受注単価アップは厳しい状況。また、工事期間が重なることも想定され、労働装備力の管理が今後の課題。(内装仕上)

4月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4月の発注合計は、261.9億円(前年同期比▲25.3%)となりました。前年比プラスは「県」の124.0億円(同+21.6%)、マイナスは「国」の18.5億円(同▲40.6%)、「市町村」の78.1億円(同▲26.1%)、「その他」の40.6億円(同▲63.6%)でした。

北信地区市町村の発注合計は174億円(同+18.3%)で、うち長野市は95億円(同+958.5%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2022年4月)

(単位=百万円/資料: 東日本建設業保証(株))

		2022年4月	前年同月比
長野県	国	1,852	▲40.9%
	県	12,396	+21.6%
	市町村	7,811	▲26.1%
	その他	4,062	▲63.6%
	合計	26,191	▲25.3%
北信地区	市町村	1,735	+18.3%
	(内長野市)	953	+958.5%

4月の新設住宅着工戸数

長野県の4月の新設住宅着工戸数は954戸(前年同月比+15.1%)でした。持家が558戸(同▲0.9%)、貸家が192戸(同+35.2%)、分譲が201戸(同+66.1%)、給与が3戸(同±0.0%)です。

北信地区の4月の新設住宅着工戸数は195戸(同+31.3%)でした。持家が124戸(同+24.6%)、貸家が31戸(同▲3.1%)、分譲が39戸(同+143.8%)、給与が1戸(同—%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数(2022年4月)

(資料: 長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	4月	124戸	31戸	39戸	1戸	195戸
	(内長野市)	76戸	27戸	24戸	0戸	127戸
	前年同月比	+24.6%	▲3.1%	+143.8%	—	+31.3%
	(内長野市)	+35.7%	+12.5%	+242.9%	—	+46.0%
	4月	558戸	192戸	201戸	3戸	954戸
長野県	前年同月比	▲0.9%	+35.2%	+66.1%	±0.0%	+15.1%

卸小売業

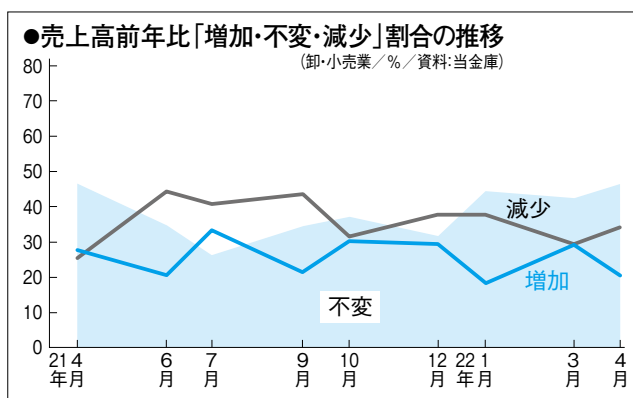
卸売業、小売業

「売上高」卸売・小売ともに減少

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(21%)が9ポイント減少し、「減少」割合(34%)が5ポイント増加、「不変」割合(45%)が4ポイント増加し、全体として売上は減少の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	29.3	41.4	29.3
	今回	増加 20.5	不変 45.4	減少 34.1
卸 売 業		17.6	47.1	35.3
小 売 業		22.2	44.5	33.3



【業 種 別】 減少…卸売業・小売業

4月の消費者物価指数(長野市) 2020年基準=100

◇総合指数(確報値)……102.2(8カ月連続プラス)

(前月比+0.5%、前年同月比+3.0%)

上昇…「教養娯楽」「被服及び履物」「家具・家事用品」

「光熱・水道」「教育」「食料」「住居」

下落…「保健医療」「交通・通信」「諸雑費」

◇生鮮食品を除く総合指数…102.1(9カ月連続プラス)

(前月比+0.5%、前年同月比+2.7%)

企業からのコメント

☆地域の祭りの開催による特需で、春先以降の売上げが増加した。(寝具・タオル卸)

☆善光寺御開帳開催によって、前年比で売上げは増えているが、期待していたよりはるかに低く、この先に期待したい。(土産品)

★土物野菜の高騰が売上げに響いている。特に玉ねぎが高く、地物が出るまで価格は下がらないだろう。野菜が高い分、果物の購入までお金が回らず、総体の売上げはさらに低い。(青果卸)

☆新型コロナウイルスが落ち着き、巣ごもり需要もなくなって、売上げが減少している。(花鉢)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」サービスは減少、輸送は横ばい、外食は増加

サービス業 売上高前年比「増加」割合は4ポイント減少の25%、「減少」割合は9ポイント増加の38%、「不変」割合は5ポイント減少の38%と、売上は減少の状況です。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は10ポイント減少の30%、「減少」割合は10ポイント減少の20%、「不変」割合は20ポイント増加の50%と、売上は横ばいの状況。タクシー、運輸ともに横ばいです。

外食業 売上高前年比「増加」割合は38ポイント増加の75%、「減少」割合は横ばいの13%、「不変」割合は38ポイント減少の13%と、売上は増加の状況です。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比横ばい、前年同月比は92ポイントの増加で、宿泊利用は伸びています。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」が16ポイント増加の43%、「引合いやや増加」が46ポイント減少の0%でした。

企業からのコメント

★燃料などのコストアップの影響が顕在化しているが、顧客の企業も原材料高などで状況は厳しく、価格転嫁は困難を極めている。(トラック輸送)

☆個人客の動きに増加が見られるが、相変わらず団体客の見込みは悪い。(旅館)

☆不動産の買い手は、個人よりも建設業者が積極的になっている。(不動産)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	28.6	42.8	28.6
	今回	増加 25.0	不変 37.5	減少 37.5
輸送業	前回	40.0	30.0	30.0
	今回	30.0	50.0	20.0
うちタクシー業		100.0	0.0	0.0
うち運送業		0.0	71.4	28.6
外食業	前回	37.5	50.0	12.5
	今回	75.0	12.5	12.5

モノ不足による具体的な影響

「調達価格の上昇」60% 「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」49%
「部品・材料不足による減産」25% 「取引先の減産による生産調整」17%

従業員の過不足状況

「過不足なく適正」46% 「やや人手不足」38% 「人手不足が深刻」8% 「過剰」6%

モノ不足による具体的な影響 上位の4項目「調達価格の上昇」(60%)、「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(49%)、「部品・材料不足による減産」(25%)、「取引先の減産による生産調整」(17%)が2ケタとなり、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」、「売上増や増産等プラスの影響」、「その他」は1ケタに止まっています。

従業員の過不足状況 「過不足なく適正状態」が46%、「やや人手不足」が38%となり、「人手不足が深刻」は8%、「過剰」は6%でした。

具体的な影響

「調達価格の上昇」60%
「資材・製品不足等による納品・竣工の遅延」49%
「部品・材料不足による減産」25%
「取引先の減産による生産調整」17%

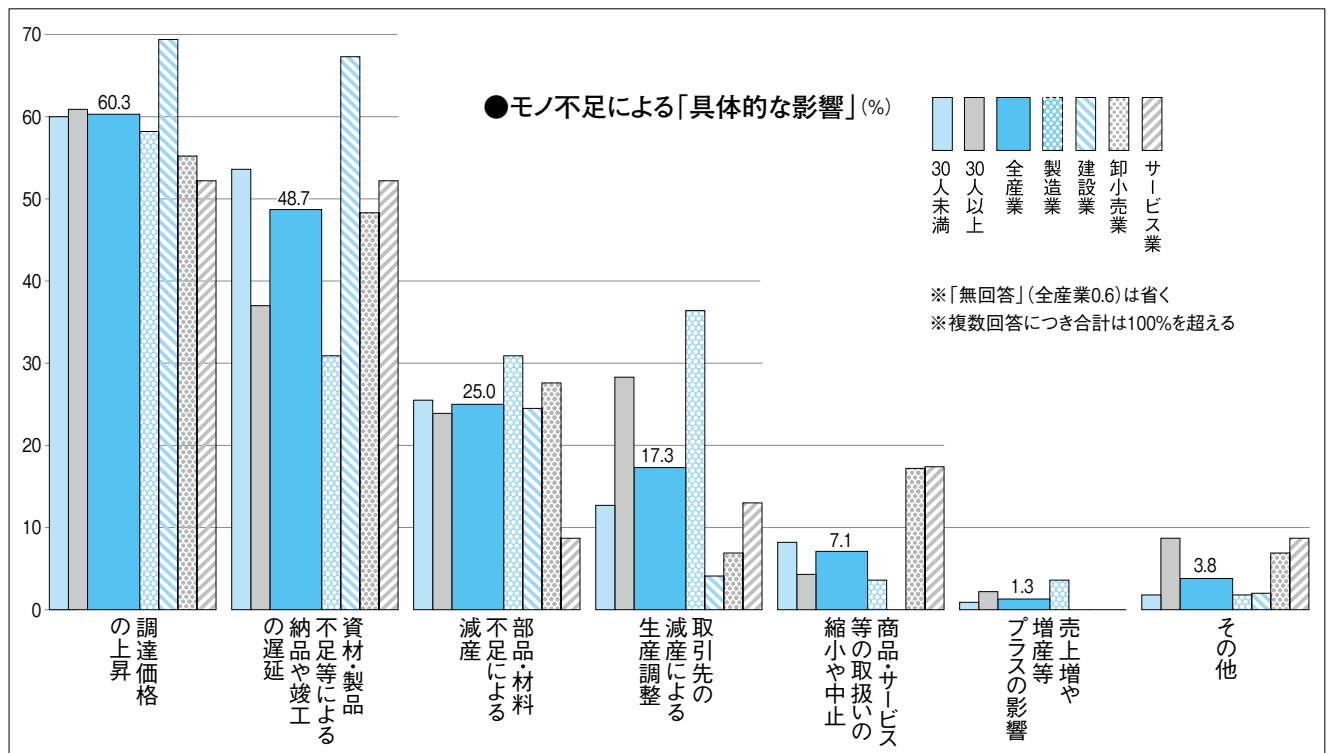
「『モノ不足による影響がある』と答えた企業に具体的な影響」を聞きました。

最も高くなった「調達価格の上昇」は(60%)、次いで「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(49%)、「部品・材料不足による減産」(25%)、「取引先の減産による生産調整」(17%)が2ケタとなり、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」、「売上増や増産等プラスの影響」、「その他」は1ケタでした。

従業員規模で見ると、30人未満は「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(54%)が17%、
「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(8%)が4%、
「部品・材料不足による減産」(26%)が2%、
30人以上より高くなっています。30人以上は「取引先の減産による生産調整」(28%)が16%、
「その他」(9%)が7%、
「調達価格の上昇」(61%)と「売上増や増産等プラスの影響」(2%)がそれぞれ1%、
30人未満より高くなっています。

◇4業種の状況

製造業 「取引先の減産による生産調整」(36%)、
「部品・材料不足による減産」(31%)、「売上増や増



産等プラスの影響」(4%)は他業種に比べ最も高く、他方「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(31%)、「その他」(2%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「調達価格の上昇」(69%)と「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(67%)は他業種に比べ最も高く、他方「取引先の減産による生産調整」(4%)、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(17%)は他業種に比べ最も高くなっています。

サービス業 「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(17%)と「その他」(9%)は他業種に比べ最も高く、他方「調達価格の上昇」(52%)と「部品・材料不足による減産」(9%)と「売上増や増産等プラスの影響」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

従業員の過不足状況

「過不足なく適正」46%
「やや人手不足」38%
「人手不足が深刻」8%
「過剰」6%

「従業員の過不足状況」を聞きました。

「過不足なく適正状態」は(46%)、次いで「やや人手不足の状況」(38%)、「人手不足が深刻である」(8%)、「過剰である」(6%)、「その他」(1%)となりました。

従業員規模で見ると、30人未満は「過不足なく適正状態」(49%)が11割、30人以上より高くなっています。30人以上は「やや人手不足の状況」(43%)が8割、「過剰である」(8%)が3割、「人手不足が深刻である」(8%)と「その他」(2%)がそれぞれ1割、30人未満より高くなっています。

◇4業種の状況

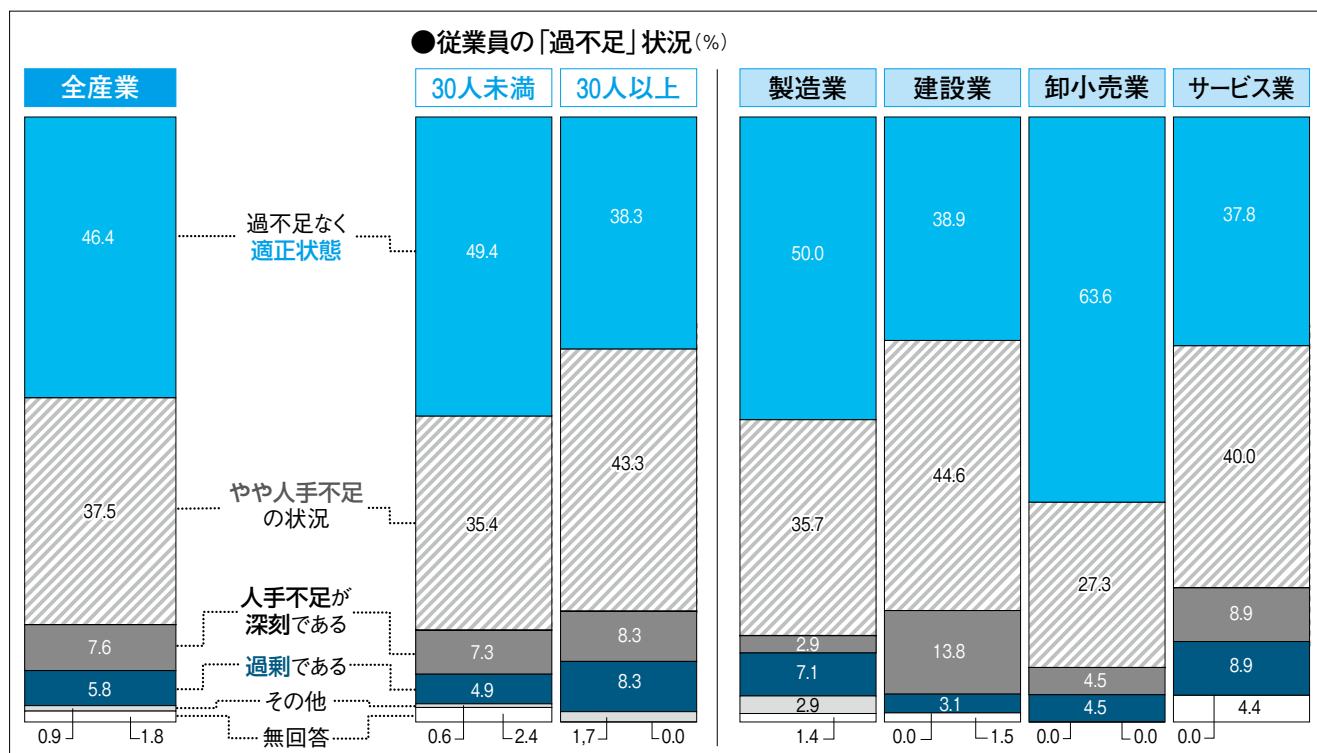
製造業 「その他」(3%)は他業種に比べ最も高く、他方「人手不足が深刻」(3%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「やや人手不足」(45%)と「人手不足が深刻」(14%)は他業種に比べ最も高く、他方「過不足なく適正」(37%)と「過剰」(3%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「過不足なく適正」(64%)は他業種に比べ最も高く、他方「やや人手不足」(27%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「過剰」(9%)は他業種に比べ最も低くなっています。

◇次号は「コロナ禍における企業経営」に関するアンケートⅡを予定





お寿司屋さんが本気で始める
“ごはんサンド専門店”でチャレンジ

株式会社 まつえ
取締役副社長 望月 義春さま

●創業の経緯についてお聞かせください…

父であり現会長の望月清美が、1972年(昭和47)に長野市日詰で12坪の「松栄寿司」を開店したのが始まりです。小さなお店でしたが、美味しいという評判で地域のお客様に多数ご利用いただき、既存の店舗では対応できなくなったため、10年後には一挙に100坪(150席)の店舗に拡大しました。さらに、「より多くの人に、美味しいお寿司を食べてもらいたい」との思いから、2012年(平成24)、長野駅東口に二店舗目となる松栄寿司東口店を出店し、現在に至っています。

4年前、60代後半になった父から、引退したいという話が出ました。私も兄も子どものころから、寿司職人としての父親の背中を見て育ってきました。一抹の寂しさもありましたが、いつかは兄弟で暖簾のれんを継ぐと思っていたのでここで決心をしました。2019年(令和1)に兄の望月清正が代表取締役に次男の私が副社長に就任し、兄は既存の松栄寿司、私は新規事業を担当しています。

●“こだわり”についてお聞かせください…

父の商売の考え方は、高価な高級料理を提供するよりも良質な料理を低価格で提供すること、また「お客様の要望にそえるサービス」をしていくことを、モットーとしてやって来ました。お客様から「こんな商品があったらいいね」と言われると、社員と試作品を作り検討重ね、メニューに載せるように努力をしてきました…。

客層は、日詰店は住宅が多いので、家族連れや町の会合、法事などの個人利用が中心です。

また東口店は長野駅前という立地から、会社関係の宴会がメインですが、県外観光客の利用も多く、また冬季シーズンはインバウンドの団体客がお寿司を食べてからスキーに行くこともありました…。

●コロナ禍の影響と対応に関して…

最大の影響として大人数での宴会の減少が挙げられます。ピーク時の半分ぐらいのお客様が来られなくなりました。会社関係の宴会はもっとひどい状況でした。しかし、ただお客様を待っているわけにもいかず、社長が積極的に売り込みに奔走しました。その中で、「ながの東急百貨店」様に声をかけていただき、“お寿司のテイクアウト専門店”として、20年(令和2)に地下一階に出店することができました。出前の注文も多くなり、“お弁当のサイト”を立ち上げ、ネットで購入できるシステムも構築しました。どちらも好評で順調に売上を伸ばしています。

しかし、それだけではメインの宴会の売上を取り戻せないため、様々な方に相談する中、コロナ禍で飲食業界の売上げが低迷している状況下、「ファーストフード」業界は売上を伸ばしているとの情報を得ました。これをヒントに寿司とファーストフードを組み合わせた新商品“ごはんサンド”を考案。社員と試行錯誤を重ね、様々なイベントにも出店して、手応えを感じましたので、4月末に東口店近くに新ファーストフード「ごはんサンドmassan(マッサン)」をオープンしました。

メイン商品は、マグロの表面を焼き、自家製のとれに漬けて、ごはんで挟んだものです。

始めたばかりで珍しさもあり、思った以上の反響がありました。ご飯のファーストフードといえば牛丼が有名ですが、購入者からは「ごはんで具材を挟むサンドイッチ的な商品は、今までにない」という声をいただいています。定着するまで時間がかかるので、これからが勝負で

すが、手応えを感じています。

松栄寿司を利用する客層は40～60代、ごはんサンドは30～40代のファミリー層がターゲットです。同じ地域の商売なので、お客様の取り合いはせず、違う客層を取り込んでいければと考えています。

●今後の夢や方針などをお聞かせください…

コロナ前は宴会で潤っていましたから、新しい事業展開は考えなくても良かったのです。しかし、新型コロナで気づかされました。今は、新しいことにチャレンジするワクワク感があります。

現在、事業再構築補助金を利用して、“二つの新しい事業”を進めています。一つは、先に述べましたが、ごはんサンドのファーストフード店



東口店の店内



日詰店の店内

“massan”です。1号店が軌道に乗れば店舗を増やし、将来はフランチャイズで、全国展開をしていきたいと考えています。

二つ目は、まだ準備段階ですが、ご自宅で寿司職人の技術と味が楽しめる“調理キット”のネット販売です。内容は、寿司職人が仕込んだ魚を真空冷凍し、調味料と調理器具のセットを全国に向けて販売します。世の中には、料理好きな“週末の大人の男性”に向けた商品が見受けられないので、潜在的なニーズがあると捉えました。広告展開は、YouTube等を考えています。

父が育んだ松栄寿司の味は、この先も変わることはありません。その味と技術を時代に合ったものにカタチを変えて活かしていくことが、暖簾を引継いだ者の使命だと考えています。



4月にオープンした「ごはんサンドmassan」

●事業の概要

設立 1972(昭和47)年
資本金 300万円
代表者 望月 清正
従業員 32名(男21名・女11名)
業 務 飲食店
所在地 長野市大字稲葉日詰2757番地6
U R L <https://matsuezushi.com/>

●沿革

1972(昭和47)年 望月清美が長野市日詰に「松栄寿司」を創業
2012(平成24)年 「松栄寿司」東口店を出店
2019(令和1)年 代表取締役役に望月清正が就任
2020(令和2)年 「松栄寿司」東急店を出店
2022(令和4)年 「ごはんサンドmassan」をオープン

北信濃 明治時代の風景

(3) 大本願周辺

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



今年度は、明治10年代に各町村が長野県に提出した町村誌に描かれた挿絵を紹介します。今回は明治15年(1882)ころできた『長野町誌』の、善光寺境内を描いた「善光寺境内之図」の一部です。

仁王門

右端に仁王門が見えます。善光寺の仁王門は弘化4年(1847)の善光寺地震で焼失して、元治元年(1864)に再建されたのが、ここに描かれている仁王門です。しかしこの仁王門も明治24年(1891)の大火で焼失し、大正7年(1918)の御開帳に合わせて再建されたのが現在の仁王門です。

大本願

浄土宗の本坊で、尼寺です。大本願も明治24年に焼失してその後再建されているので、ここに描かれているのはそれ以前の大本願の姿です。

「大本願」の文字の下にある大きな建物は、本堂

の本誓殿です。その右の、宝珠が載った建物は名号堂です。別名を親鸞堂といい、親鸞が善光寺に参詣した時、説法をした遺跡と伝えられていました。明治24年に焼失し、再建されることはありませんでした。

参道に並んだ店

大本願の前に、8軒ほどの小さな店が立ち並んでいます。反対側(東側)の宿坊前にも、小さな店が建ち並んでいます。現在はこの場所に店はありませんが、長野県立歴史館所蔵の明治4年から8年にかけての史料によれば、大本願前には12軒、宿坊前には8軒の店がありました。その中には、後に大門町に大店を構えて発展した店もあります。

電信分局と電信線

大本願南東角の善光寺境内入口に、2階建ての「電信分局」が描かれています。これは明治11年



長野町誌(長野県立歴史館蔵より)

(1878) 9月の明治天皇巡幸に間に合わせて開局した電信局です。これにより、東京方面と即時に通信ができるようになり、電報の取り扱いも始まりました。この絵には「電信分局」とともに、電柱と電信線も描かれています。

長野市内に電気が供給され、電灯がともったのは、明治31年(1898)のことです。その20年前から電信線の電柱があったわけで、電柱のことを電信柱というのも納得できます。

日本の電信の歴史

佐久間象山は松代で電信実験をしたことで知られていますが、実用の日本の電信の歴史は明治維新とともに始まりました。明治2年(1869)末には東京・横浜間に電信線が架設され、電報の取り扱いが始まりました。明治4年には長崎・ウラジオストク(ロシア)間に海底ケーブルが敷設され、日本は欧米と電信ができるようになりました。明治6年には長崎・東京・青森間に電信線が架設され、東京は直接欧米と電信ができるようになりました。明治10年代には日本中に電信網が拡大していきました。

長野警察署

この絵には「電信分局」の西隣に、「長野警察署」が描かれています。長野警察署は、明治8年(1875)8月に大門町の旧本陣藤井平五郎方に長野警察出張所が置かれたことに始まりました。同9年9月には大本願の明照殿に移転し、同10年2月からは長野警察署となりました。その後電信分局と警察署は、明照殿を移動させてその跡地に新築されました。現在そこはまた、明照殿となっています。

常夜灯

善光寺の入口左側の「電信分局」前に、1基の常夜灯(石灯籠)が描かれています。ここには描かれていませんが右側(東側)にも同じような常夜灯があって、左右で1対になっています。安政2年(1855)に江戸築地の鈴木栄夢が願主となって造立さ



秋の善光寺入口付近

れたもので、多数の人名が刻まれています。

正面には「御本丸、大御奥衆中」などの文字があって、将軍や大奥の人々の供養の意味があるようです。その中で「六拾九御歳 御男性様」とあるのは、69歳で没した11代将軍徳川家斉(1773~1841)のことだと考えられます。

元標

図の下段中央に木柱があり、「元標」と書かれています。明治政府は明治6年(1873)に、各県は県庁所在地の重要地点に木標を建て、里程の元標とするよう定めています。ここに描かれているのが、長野県の元標です。これは大正8年(1919)の旧道路法によって長野市道路元標となり、その石柱が現在も保存されていますが、明治時代には木柱であったことが分かります。

ここは江戸時代には高札場でした。この前にあった商店は、現在も「御高札前」と称しています。

火の見梯子

「元標」の右側に火の見梯子^{ばしご}が立っていて、半鐘^{やぐら}がつるしてあります。現在は仁王門東に火の見櫓がありますが、その始まりはこの火の見梯子なのでしょう。

7月号は「城山から西方を見た図」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫](#) すかい

◆新型コロナ感染症がもたらした「価値観の変化」

「とても良いものだと感じる」2% 「やや良いものだと感じる」35%
「やや悪いものだと感じる」30% 「とても悪いものだと感じる」11% 「分からない」20%

「新型コロナ感染症がもたらした価値観の変化は、あなた自身にとってどのようなものか」を聞きました。

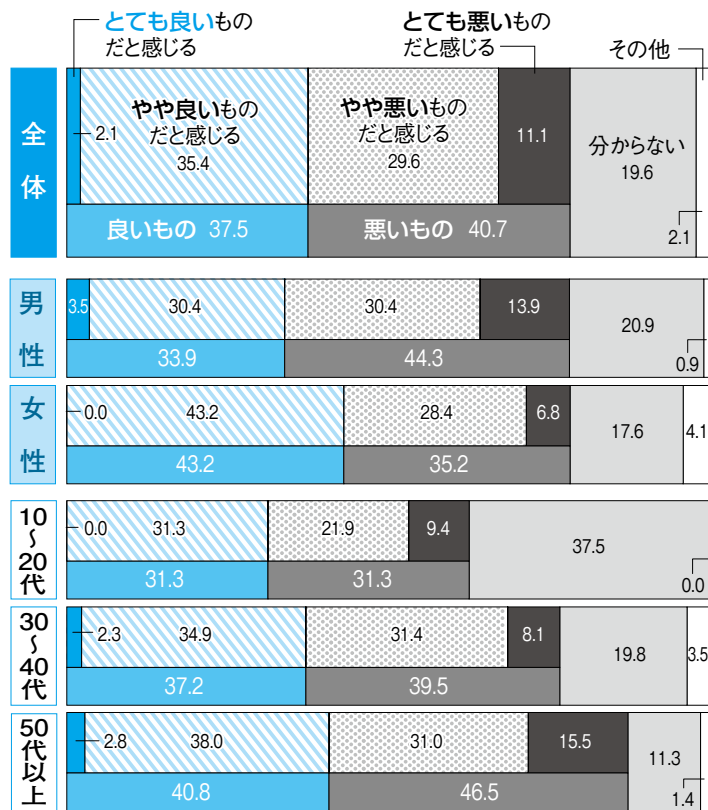
「とても良いものだと感じる」(2%)と「やや良いものだと感じる」(35%)を合わせた「良いもの」は38%、「やや悪いものだと感じる」(30%)と「とても悪いものだと感じる」(11%)を合わせた「悪いもの」は41%、「分からない」は20%となりました。

男女別で見ると、男性は「良いもの」が34%、「悪いもの」が44%、「分からない」が21%、女性は同様に43%、35%、18%となりました。

世代別で見ると、10～20代は「良いもの」が31%、「悪いもの」が31%、「分からない」が38%、30～40代は同様に37%、40%、20%、50代以上は41%、47%、11%と、「分からない」の差が広がりました。

〈当金庫・2022年3月調査〉

●新型コロナ感染症もたらした、「価値観の変化」(%)



●みなさまの税務相談のご案内 [7月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
7月 4日 月	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	7月 19日 火	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)
6日 水	大豆島支店 (長池支店)		21日 木	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
7日 木	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	22日 金	大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
12日 火	墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	26日 火	本店営業部	
13日 水	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	27日 水	本部	
14日 木	屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)	28日 木	本部	



長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

